

誰ひとり取り残さない 避難所運営 8カ条



1 情報の収集



【概要】

災害発生時には高齢者や障害のある人、病気を抱える人、乳幼児、児童、妊産婦、外国人など、いろいろな状況の人たちが、それぞれの困難に直面します。マイノリティの人たちへの配慮も必要です。

※マイノリティとは：ある集団のなかで少数派となる人々のことを指す

【主な取り組み】

●ボランティアの募集

①男女の情報収集のスタッフの募集

→行政の対応では限界があるため、避難者からスタッフを募集することにより、避難者も人を助ける側に立つという意識付けをもたせる。

●情報の収集

①避難者の求める多様なニーズを把握する。

→避難者は混乱しているため、情報の受付段階で分類はしない。（窓口をいくつも設け、担当が違うからとたらい回しにしない）

→受付日時、該当者などニーズの詳細部が後にわかるようにする。

※個人情報の取り扱い

ケアにつなげるには必要なことであるため外部への流出に留意する。

●集めた情報の分類

①情報を内容別に分類します。

→適格にニーズに対応するため、対処方法ごとに情報を分類する。

（例）避難所内で解決できるもの、行政に依頼するもの、警察や消防等関連団体へ依頼するもの（人捜し他）弁護士等専門家の協力が必要なものなど。

【想定される事案】

①赤ちゃんから目を離せない。自力で移動できない。物資配布の列に並べない。

→個別配布など

②赤ちゃんが夜泣きする。認知症の親が徘徊する。

→個室の割り振り

③子供に発達障害があり、避難所生活は困難なので車の中で暮らしている。

→個室の割り振り

④妊娠しているが、言い出せない。

→被災者個人カードなどで把握

⑤日本語が分からず、情報が得られない。

→外国語での情報伝達

⑥ケースによっては、指定された福祉避難所への移送を手配。

⑦女性特有のニーズは男性には言いづらいので、女性のスタッフが聴き取る。

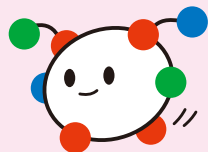
・病気療養中（発熱者）、認知症の方、要介護者、アレルギーなどの対応について協議し、支援を行う方への周知を行う。

●情報発信（避難所内での掲示板など）のフォーマットが必要

・外国人対応マニュアル作成を行う。

・子供にもわかる表示（ピクトグラムやイラスト等）の工夫を行う。

・地域、企業との連携について、協議する。



2 リフレッシュ広場の設置及び 衛生的な環境の維持

【概要】

災害発生時には大人も子供の不安になったり、頑張りすぎたりしてしまいます。また、誰かに相談したいこと、ただ単に誰かと話したい、何でもいいから息抜きをしたいこともあるでしょう。そんな時に多くの人が気軽に集まり、リフレッシュできる場所を設けておくとういでしょう。

ゴミ箱に蓋をする、ゴミやトイレなどのルールやマナーの全体的な周知を行う事で、一人一人が衛生的な環境の維持に取り組めるよう心がけることが快適な空間を保つ第一歩に繋がるでしょう。

【主な取り組み】

①誰もが自由に集まり話ができる場所。

一日の仕事を終えた人が、その日一日の出来事などの雑談が出来る場所を設定する。

※居住スペースと飲食スペースを分ける（居住スペースで食事する

習慣とならないようにする）

→可能な範囲で、食べ物・飲み物などがあるとよいでしょう。

→静かにのんびりしたい人のために、本やリクライニングできる椅子などもあるとよいでしょう。

→可能な範囲で、テレビなど娯楽設備があるとよいでしょう。

→ある程度の飲酒も認めてあげませんか？（飲酒を認める場合には、ルールを決めて節度ある大人の交流を！）

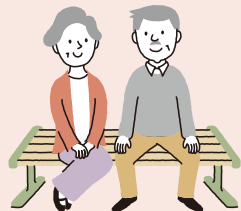
→貴重品は各自で管理し、取扱う。

→バーテンションの高さなど、見守りが必要な方への配慮を行う。

②ゴミやトイレなど衛生面での清潔を保てるよう工夫を行う。

→ゴミ箱にはフタをする。

→トイレの使用について、協議し、全員が把握できるようにする。（水道管が破損している場合、水を流しても溢れてくるだけで処理されない）



3 みんなで共同作業

【概要】

男性は早い段階で仕事復帰やがれきの片付けなど有償労働に就く一方、女性は不便な生活の下での無償の炊き出しや家庭的負担が集中しがちです。性別によって不利益な扱いを受けないよう配慮しましょう。また子供や高齢者にも様々な役割を任せましょう。

【主な取り組み】

①一つの作業において性別が偏らず男女が共に活躍できるようにしましょう。

②性別役割分担意識のもとに作業が分担されないよう、公平性を持ってローテーションしましょう。

【想定される事案】

食事の準備や片付け。

乳幼児や高齢者の世話。

共有スペースやトイレの掃除、ゴミの処理など。

物資の配布や行政との連携。

防犯（見回り）など。

・授乳室は女性のみ、ミルク及びおむつ替えは男女ともに入室できるように位置関係にも配慮が必要。

・物資の配布の仕方を協議し、全体に周知する。

・避難所のルールの設定を行う。

・意見を言いやすい目安箱を設置する。

・男女平等に役割分担を検討し、速やかに決定する。

4 女性も避難所運営の責任者に

【概要】

男女双方の視点や生活者としての視点、様々なニーズを反映させるために女性も運営の責任者として参画することが大切です。



【主な取り組み】

①女性も避難所の責任者に

→女性の要望や意見を反映できるように女性もリーダーになり、避難所を運営しましょう。

②女性の意見を伝えやすい環境づくり

→運営の責任者や班長等には女性を2人以上配置しましょう。

→リーダーが10人いて、そのうち3人（3割）女性がいれば意見を出しやすくなると言われています。

男性は女性の意見も積極的に聴くよう心がけましょう。

5 女性専用スペース、 相談窓口の設置と周知

【概要】

避難所や生活する女性たちに、「着替えるスペース」や「男性の目が気になる」などに対応するために女性専用スペース及び相談窓口の設置とその周知を図りましょう。

【主な取り組み】

①安心して休憩できる、ストレス解消のための「場」の提供

→避難所生活における不安や不満、精神的圧迫などの傾聴と相談。

→授乳用のスペースづくり。

→子供や扶養家族の面倒を一時的に見てもらえる環境づくり。

②女性のための物資等の提供

→生理用品や女性用下着等の受付や配布。

衣類・バッグ、化粧品などの提供。

③他の機関・ボランティアなどの交流。

→専門家窓口の設置。（将来に対する不安や今後の生活・住居等に対する疑問の相談）

④女性専用スペースのPR活動

→ポスターを女子トイレや避難所入り口等に掲示し、チラシを配布する。



6 女性や子どもに対する 暴力（性被害、DV）の防止

【概要】

避難所生活において、女性や子どもなど弱者に対する暴力等（性加害、性被害）を予防するため、避難所を運営する全ての関係者防犯対策を行い、暴力から身を守る、暴力を許さない雰囲気づくりに努めましょう。

【主な取り組み】

①お互いに声を掛け合いましょう。（挨拶・励まし）

→声を掛け合う事によって何でもはなしやすくなるでしょう。

②行動は誰かと一緒に、みんなでみんなの身を守りましょう。

③男女別のトイレや更衣室の設置、街灯や夜間照明の設置。

④女性や子どもの安全確保のための取り組み。

→防犯ブザーを配布しましょう。

→危険箇所への巡回警備や啓発活動、周知を行いましょう。

⑤整理整頓を心がけ、風紀を保つことで暴力の防止に繋がります。

7 子どもたちの 生活リズムづくり

【概要】

子どもたちにとっては、日常の生活リズムを取り戻すことが大切です。

避難所の中に子供スペースはありますか？遊びや学習できる場を設けて、できるだけ日常に近い生活環境を作りましょう。

【主な取り組み】

①子どもたちの所在と健康状態の確認

→本部と連絡を取り子ども全員の把握と、ケガ・病気の有無を確認して必要な連絡・保護をする。

②日常の生活リズムを取り戻す

→子どもスペースを設置し、保育園・学校に近い環境づくりに努めましょう。

→遊ぶ時は、時間を決めるなどのルールを作り、守りましょう。

③避難所全体で子どもたちを見守る

→人生の先輩たちで、子育て中の親をサポート

しましょう。



8 孤立防止、過労防止

【概要】

災害の際は極度の興奮状態や緊張感などから、避難所生活に馴染めず孤立することが考えられます。

また、無意識に頑張りすぎてしまい過労となることが考えられるので、健康管理には十分な気配りが必要です。疲労度が確認できる体制を整え、地域から孤立なく暮らせるように支援しましょう。

【主な取り組み】

●孤独防止

①見守り訪問などを行う。

②個人の個性、能力の引き出し

（居場所づくりが大切。孤独にならないための工夫が必要。その方の職業や特技を活かして協力の輪の中に入るきっかけづくりを行う）

●疲労防止

①避難所運営や復旧活動などが一部の人に偏らないように、無理のない交代制シフトの導入。

②お互いの思いやりの気持ちをもって、みんなでサポートしましょう。

